

つなぐ

私は現役時代、2番打者として試合に出させていただいていました。過去の通信でも触っていますが、高校3年生の今頃（5～6月）、攻撃作戦を自由にしてよいという「特権」を与えられた期間がありました（それがその後、指導者を目指すキッカケになりました）。恩師からは（バントで）送った以上の形を目指せ、そんな指示がありました。素直に送りバントをすることもあれば、ランナーをスタートさせてエンドラン、ランナーからの合図で単独スチールなど、様々な攻撃を仕掛けました。成功・失敗共に経験しましたが、何より野球の楽しさを実感出来たことを今でもよく覚えています。

野球が、3つのアウトをとられるまでに4つ目の塁を踏まなければ得点にならない以上、「つなぐ」という役割が大事なことは明確です。また、ランナーが反時計回りに進塁することから、その背中側（右側）に打った方が進塁しやすいこともハッキリしています。

なぜそんなことを書いているか？

先日のプロ野球、阪神対巨人の試合、初回巨人の攻撃（無死1塁）で、2番・キャベッジ選手が送りバントをしたシーンがあったのです。これはサインではない（キャベッジ選手の自己判断）すぐにそう思いました。味方ベンチもやや驚いた感じだったからです（試合は次打者、3番・若林選手の先制2ランで巨人が逃げ切り勝ちました）。

アンチ巨人ですが（アンチなのに試合はよく見ていたりする）巨人が一番結果を残していた時代は大砲を並べた時だったでしょうか？いや、2番打者・川相選手がコツコツとバントでランナーを進めていた時代だったのではないでしょうか？間違いないと思います。

色々な視点で野球を観ていただきたいと思います。今のやり方（戦法）がすべて正しい訳ではなく、昔の戦い方のほうが優れていることも間違いないと思います。

派手に勝つ必要などないのですから・・

市立浦和高等学校野球部通信

発行者 鈴木 諭

発行日 R 7. 5. 19

発行ナンバー 1181号

（北村主将の代・・78号）

現場とのズレ

近々私達高校野球の世界にもDH制が導入されるのでは、というニュースが流れました。DH制とは投手が打席に立たず（投球に専念）10人目の選手が投手の代わりに打席に立って打つというルールです。

素晴らしいルール・・と言っているのは部員数の多い一部の高校だけではないでしょうか？私達のように部員数が少ない高校は皆、少しでも打てる選手は（守りに目をつぶってでも）野手でスタメン起用している、あるいは（投手のバッティングがよくなくとも）その投手より打てる打者が控えにいる・・現状、そんな感じの高校が多いと思います。

また、一番喜べない理由はコレ、たとえDH制を使っても、2番手や3番手で投げる投手が（スタメンで出ている）野手になる場合、DH制を解除しなければならなくなること。それは打撃を期待されて試合出場したDHの選手が自然と途中交代になるということを意味しています。

もっと弱者に目を向けられないでしょうか？

埼玉県ではここ数年春の大会、25名を登録、そのうち20名のベンチ入りメンバーを試合ごとに選ぶという形がとられていますが・・そもそも（春の時点で）25名も部員がいない（根本的に20名いない高校も多い）一部、部員がたっぷりいる高校のためだけのルールになっているという現状です。

世の中同様・・格差は広がり続けます。